

# 2022年3月期 第3四半期 決算補足資料

- |                    |       |
|--------------------|-------|
| 1. 決算概観（連結）        | P.1   |
| 2. 第3四半期 業績のポイント   | P.2   |
| 3. 第3四半期 業績の状況     | P.3   |
| 4. 主要製品の状況         | P.4   |
| 5. 第3四半期 業績と予想（連結） | P.5   |
| 6. 開発品一覧           | P.6～7 |

2022年2月4日  
キョーリン製薬ホールディングス株式会社



## ■ 将来の見通しに関する注意事項

本資料には、当社グループに関する業績見通しや目標・計画等、将来に関する事項が含まれています。これらの記述は、本資料作成時点において入手可能な情報や予測に基づく、当社グループの仮定や見通し等の判断によるものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後発生した種々の要因により、実際の業績や開発品の進捗・成否、その他の見通し等が記述内容と大きく異なる可能性があります。また医薬品（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その記述は宣伝広告や医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 2022年3月期 第3四半期 決算概観（連結）



(単位：百万円)	19年3月期 第3四半期	20年3月期 第3四半期	21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	対前年 (%)	22年3月期 予想	対前年 (%)
売上高	82,017	78,614	74,955	77,717	n/a	102,600	n/a
営業利益	6,794	5,271	4,114	2,926	-28.9	3,300	-43.0
経常利益	7,124	5,836	4,656	3,515	-24.5	3,800	-41.1
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益	5,112	4,374	4,504	2,483	-44.9	2,700	-56.0

## 22年3月期 第3四半期 連結業績（実績）

**【売上高】** 薬価改定及び新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、当社グループが重点領域とする呼吸器・耳鼻科等の市場がマイナス成長となる中、効率的な普及促進活動により新薬群が伸長するとともに、一部後発医薬品企業の製品供給不安の影響により主要な長期収載品の売上げが増加し、新医薬品等（国内）は前年同期を上回る実績となりました。また後発医薬品の売上げも増加し、全体の売上高は777億17百万円となりました。

**【利益】** 売上げは増加しましたが、売上原価率が上昇したことにより売上総利益は362億40百万円（前年同期387億円98百万円）と前年同期に対して減少しました。販売費及び一般管理費（研究開発費含む）は、慢性咳嗽治療薬の導入に関わる契約一時金を計上したものの、コスト削減等により、333億13百万円（前年同期346億84百万円）と前年同期に対して減少しました。その結果、営業利益は29億26百万円、経常利益は35億15百万円となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は24億83百万円となりました。

## 22年3月期 連結業績（予想）

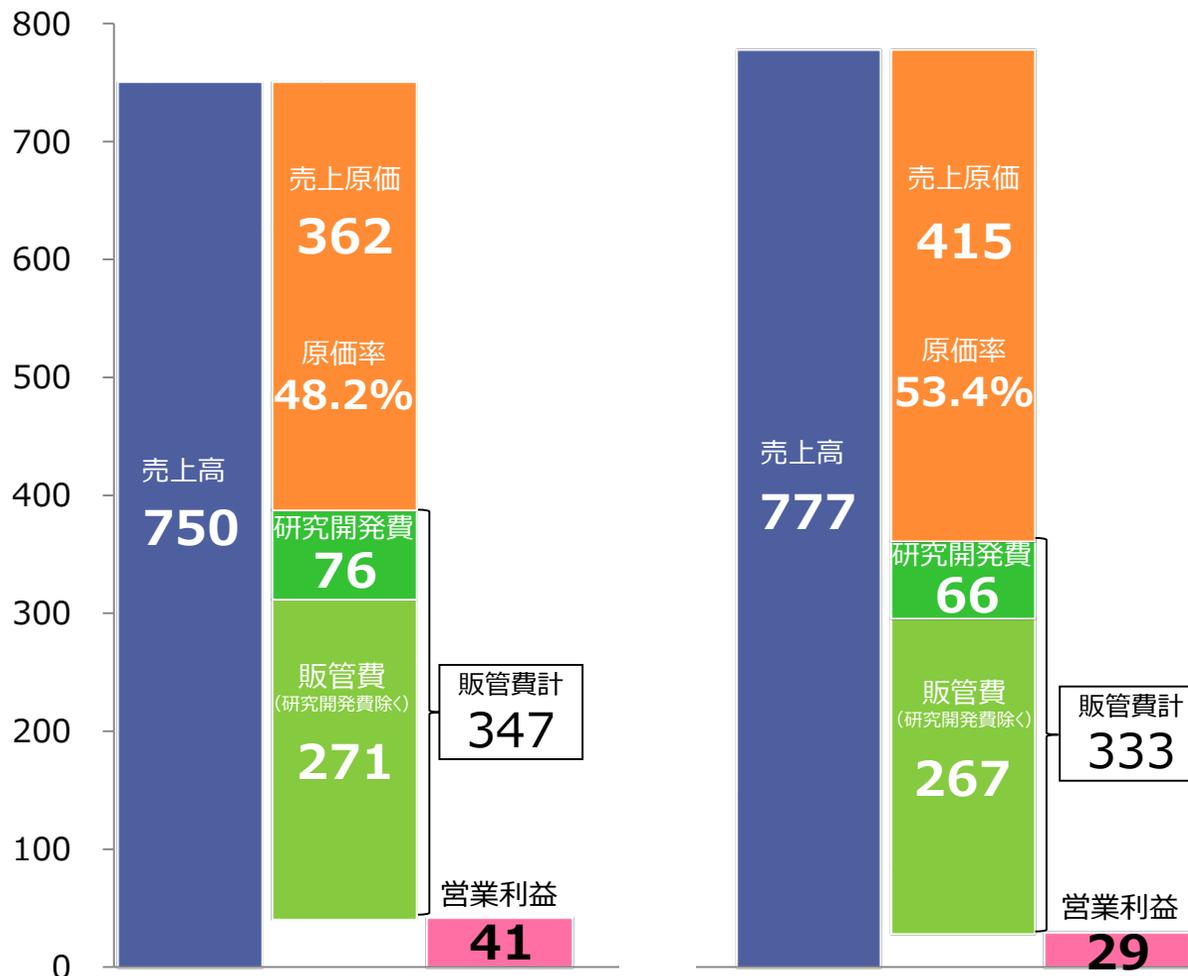
現時点におきまして、2021年5月11日に公表した2022年3月期（通期）連結業績予想は変更しておりません。

（通期の業績予想に対する進捗度 売上高：75.7% 営業利益：88.7%）

また2021年5月11日に公表した配当予想 年間52円／株につきましても変更はございません。

※ 2022年3月期 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を適用しており、比較対象となる前第3四半期連結累計期間の収益認識基準が異なることから、当第3四半期連結累計期間と比較しての増減額及び前年同期比（%）は記載しておりません。  
なお営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。

(単位：億円)



## 【ポイント】

### 売上高は増加

#### 売上原価率が上昇

【低下要因】

- 新薬群の売上拡大

【上昇要因】

- 薬価改定の影響（杏林製薬6%台）
- 後発医薬品の売上増加
- 棚卸資産の除却損等の増加

### 売上総利益は減少

#### 販管費は減少

- 研究開発費は減少  
前年度、AKP-009導入に関わる契約一時金を計上
- 販管費（研究開発費除く）は減少  
リフヌア錠45mg導入に関わる契約一時金を計上  
コスト削減

### 営業利益は減少

21年3月期第3四半期

22年3月期第3四半期

# 2022年3月期 第3四半期 業績の状況

(単位：億円)	21年3月期 第3四半期	22年3月期 第3四半期	対前年 (額)
売上高	750	<b>777</b>	n/a
新医薬品等(国内)	517	<b>524</b>	n/a
新医薬品(海外)	8	<b>5</b>	n/a
後発医薬品	225	<b>249</b>	n/a
営業利益	41	<b>29</b>	-12
経常利益	47	<b>35</b>	-12
親会社株主に帰属する 四半期純利益	45	<b>25</b>	-20

※「収益認識に関する会計基準」等の適用による影響額は売上高が816百万円減少し、販売費及び一般管理費が816百万円減少しましたが、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益への影響はありません。

(対前年)

■ **売上高** **777億円** **(n/a)**

● **新医薬品等(国内)** **524億円** **(n/a)**

	21.3 (3Q)	⇒	22.3 (3Q)	
・フルティフォーム	102	⇒	98	( -4)
・デザレックス	31	⇒	43	(+12)
・ベオーバ	55	⇒	65	(+10)
・ラスビック	6	⇒	14	( +8)
・ペンタサ	98	⇒	109	(+11)
・ウリトス	20	⇒	10	( -10)
・ナゾネックス	12	⇒	13	( +1)
・キプレス	59	⇒	61	( +2)
・ムコダイン	25	⇒	29	( +4)

● **新医薬品(海外)** **5億円** **(n/a)**

前年度に計上した開発品の知的財産及び原薬等の譲渡による売上の反動減等

● **後発医薬品** **249億円** **(n/a)**

モンテルカスト錠「KM」等 オーソライズド・ジェネリック3製品の売上が増加、6月、12月追補収載品の売上が寄与

■ **営業利益** **29億円** **(-12)**

● **原価率：53.4% (前年同期：48.2%)**

【低下要因】新薬群の売上拡大  
【上昇要因】薬価改定、後発医薬品の売上増加  
棚卸資産の除却損等の増加

● **研究開発費：66億円 (前年同期：76億円)**

前年度、AKP-009導入に関わる契約一時金を計上

● **販管費(研究開発費除く)：267億円 (前年同期：271億円)**

販売費、人件費の減少、特許等使用料の増加 (リフミア錠45mg導入に関わる契約一時金)

■ **親会社株主に帰属する  
四半期純利益** **25億円** **(-20)**

# 2022年3月期 第3四半期 主要製品の状況



(単位：億円)		21年3月期	22年3月期	21年3月期	22年3月期	対前年 (額)	対前年 (%)	21年3月期	22年3月期	22年3月期
		第2四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	第3四半期 実績			実績	予想	進捗率 (%)
新医薬品等 (国内)	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	64	63	102	<b>98</b>	-4	-4.6	133	<b>139</b>	70.0
	デザレックス (アレルギー性疾患治療剤)	18	26	31	<b>43</b>	+12	+38.3	57	<b>72</b>	59.8
	ベオーバ (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	38	43	55	<b>65</b>	+10	+16.8	73	<b>86</b>	74.7
	ラスビック (ニューキノロン系抗菌剤)	2	8	6	<b>14</b>	+8	+149.6	9	<b>28</b>	49.5
	パンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	64	71	98	<b>109</b>	+11	+11.6	128	<b>117</b>	92.9
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	16	7	20	<b>10</b>	-10	-47.9	23	<b>10</b>	101.8
	ナゾネックス (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	6	7	12	<b>13</b>	+1	+3.6	28	<b>18</b>	68.9
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	35	36	59	<b>61</b>	+2	+4.2	83	<b>69</b>	87.8
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	14	16	25	<b>29</b>	+4	+12.5	33	<b>29</b>	96.4
	ミルトン (哺乳びん・乳首消毒剤)	11	10	17	<b>16</b>	-1	-5.6	21	<b>22</b>	70.7
ルビスタ (環境除菌・洗浄剤)	10	10	16	<b>15</b>	-1	-2.2	20	<b>21</b>	70.6	
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	45	51	73	<b>85</b>	+12	+16.7	108	<b>92</b>	91.7
	モメタゾン点鼻液「杏林」 (定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤)	9	10	17	<b>19</b>	+2	+11.6	38	<b>35</b>	53.4
	イミダフェナシン錠「杏林」 (過活動膀胱治療剤)	3	4	5	<b>6</b>	+1	+8.9	7	<b>7</b>	75.0

# 2022年3月期 第3四半期 業績と予想 (連結)



(単位：百万円)	21年3月期 第2四半期 実績	22年3月期 第2四半期 実績	21年3月期 第3四半期 実績	22年3月期 第3四半期 実績	対前年 (額)	対前年 (%)	21年3月期 実績	22年3月期 予想	22年3月期 進捗率 (%)
売上高	47,735	49,102	74,955	<b>77,717</b>	n/a	n/a	102,904	<b>102,600</b>	75.7
新医薬品等 (国内)	32,857	33,279	51,671	<b>52,369</b>	n/a	n/a	69,735	<b>68,600</b>	76.3
新医薬品 (海外)	527	342	755	<b>493</b>	n/a	n/a	996	<b>800</b>	61.7
後発医薬品	14,351	15,481	22,528	<b>24,855</b>	n/a	n/a	32,172	<b>33,100</b>	75.1
営業利益	1,502	-68	4,114	<b>2,926</b>	-1,188	-28.9	5,786	<b>3,300</b>	88.7
経常利益	1,813	285	4,656	<b>3,515</b>	-1,141	-24.5	6,447	<b>3,800</b>	92.5
親会社株主に帰属する 四半期 (当期) 純利益	2,118	121	4,504	<b>2,483</b>	-2,021	-44.9	6,130	<b>2,700</b>	92.0

2022年3月期 第1四半期連結会計期間の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しており、2022年3月期連結業績の第2四半期実績、第3四半期実績、通期予想は、当該「収益認識に関する会計基準」等を適用した数値となっております。

# 開発品一覧① (2022年2月4日現在)

## PhⅢ ~ 発売

※前回 (2021年11月8日) からの変更点

開発段階		製品名/ 開発コード	適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
発売 (21年4月)	—	<b>ジムソ膀胱内注入液50%/ KRP-116D</b>	間質性膀胱炎	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	
承認※ (22年1月) MSD	—	<b>リフヌア錠45mg/(一般名: ゲーファピキサントクエン酸塩)</b>	難治性の慢性咳嗽	メルク	選択的P2X3受容体拮抗薬であり、難治性または原因不明の慢性咳嗽への効果が期待される	21年4月 MSDより日本国内での 独占販売権を取得

## POCプロジェクト (Ph I ~ PhII)

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph I (20年7月)	Ph I b/ II a (aTyr:米国)	<b>KRP-R120</b>	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr (エイタイヤー)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2 受容体(NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	
	Ph I (21年4月:英国)	<b>KRP-A218</b>	重症化リスクを有する ライノウイルス感染症	自社	宿主分子を標的とし、体内におけるウイルス増殖を抑制する抗ウイルス薬	

# 開発品一覧② (2022年2月4日現在)

## 導入品の状況

※前回 (2021年11月8日) からの変更点

開発段階		開発コード	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
国内	海外					
Ph II (19年12月) あすか製薬	—	<b>AKP-009</b>	前立腺肥大症	あすか製薬	新規アンドロゲン受容体モジュレーター作用を有し、前立腺縮小作用に加えて排尿機能改善作用を併せ持つ、新しい前立腺肥大症治療薬として期待される	日本国内における共同開発及び販売等に関する契約を締結 (20年9月)

高用量での追加Ph I 試験を開始 (21年9月)

## 導出品の状況

開発段階	製品名/ 開発コード	導出先	予定適応症	起 源	特 徴	備 考
Ph I	<b>KRP-203</b>	Priothera (プリオセラ)	—	自社	S1P受容体アゴニスト	本剤の開発・販売等に要する特許・データ等の知的財産及び原薬等を譲渡 (20年9月)
非臨床	<b>感音難聴開発化合物</b>	Otonomy (オトノミー)	感音難聴	自社	感音難聴を対象とした新規開発候補化合物	難聴等の耳科を対象とする全世界における開発、製造、販売に関する独占的権利を供与 (20年8月) 杏林製薬は日本における販売権を留保 Otonomy社 開発コード: OTO-6XX

※FPR2作動薬プログラムは、導出先のBMSが開発戦略上の視点から開発中止を決定したため、開発品一覧から削除しました